

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年8月21日（金）

2 確認箇所

- ・2号機使用済燃料プール（遠隔操作室）（図1）
- ・No. 3、4重油タンク跡地周辺（油含有土壌対策工事現場）（図1）

3 確認項目

- （1）2号機燃料取り出し作業の状況
- （2）サブプレッションプール水サージタンク周辺における油含有土壌対策工事の状況

4 確認結果の概要

（1）2号機燃料取り出し作業の状況

東京電力では、2号機使用済燃料プールに貯蔵されている615体の燃料について、令和10年度までの取り出し完了を目指し、6月2日から燃料取り出し作業を開始しており、8月19日までに35体の燃料取り出しが完了している。

今回、新たに7体の燃料取り出し作業が行われていることから、その作業状況について確認した。（前回確認：[令和8年7月24日](#)）

- ・遠隔操作室において、使用済燃料の輸送や貯蔵に使われる専用の容器（以下「キャスク」という。）を2号機原子炉建屋から搬出するための作業を確認した。
- ・確認時はキャスクの一次蓋ボルトの締付け、2号機原子炉建屋1階へのキャスクの吊り下ろし、キャスクの横倒し等の作業が行われており、いずれの作業においても、手順書に基づき作業員間で連携を図りながら、確実に作業が行われていた。（写真1）
- ・一連の作業において異常は認められず、安全に作業が進められていた。

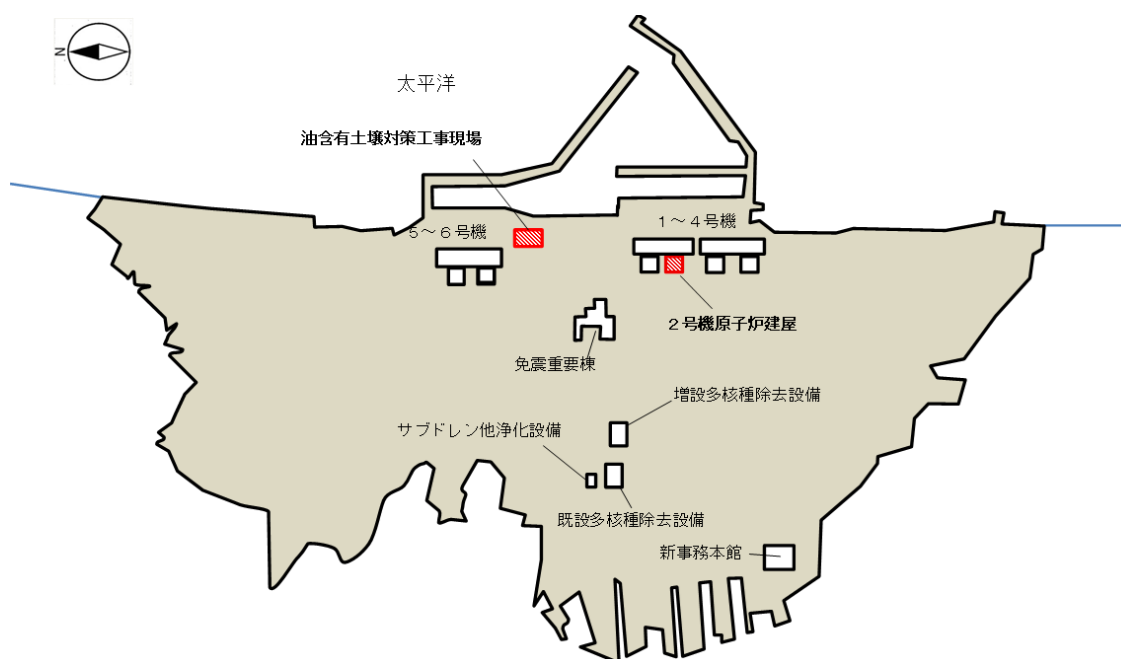
（2）サブプレッションプール水サージタンク周辺における油含有土壌対策工事の状況

平成23年3月に発生した東日本大震災に伴う津波により、5／6号機のサブプレッションプール水サージタンク及びNo. 3、4重油タンク（令和3年3月撤去済）が損傷を受け、周辺に流出した油が土壌に浸透した。周辺土壌から港湾への重油漏えいは確認されていないが、東京電力は、周辺土壌から港湾への流出を防ぐための抜本的な対策として油含有土壌対策工事[※]を進めている。

今回は、当該工事及びその周辺の状況を確認した。（前回確認：令和8年5月20日）

- ・現場確認時に作業は行われていなかったが、鋼矢板を敷設するための準備工として先行掘削作業が進められていた。（写真2）
- ・掘削作業で発生した土砂や瓦礫類は分別され、エリア内に仮置きされていた。（写真3）
- ・確認した範囲では、撤去物の飛散や港湾への油漏えい等の異常は認められなかった。

※重油が浸透しているエリアの周辺に鋼矢板を打設する。また、一部区域については、表土の油処理や薬液注入・地盤固化工事を行う。



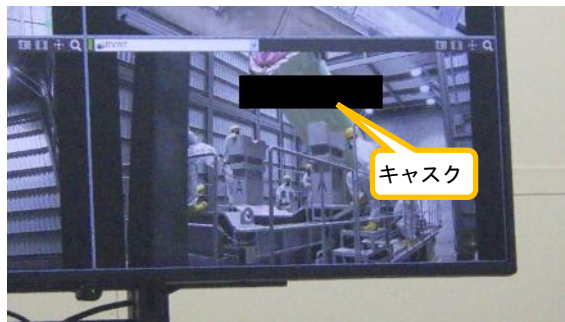
（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1①）キャスクの一次蓋ボルトの締め付け作業の状況



（写真1②）2号機原子炉建屋1階へのキャスクの吊り下ろし作業の状況



(写真1③) キャスクの横倒し作業の状況



(写真2) 掘削作業の状況



(写真3①) 土砂の仮置き状況



(写真3②) 瓦礫類の仮置き状況

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常値は確認されなかった。